第 15 回オペラ鑑賞会　　我孫子オーディオファンクラブ
2023 年 2 月 26 日

レハール：オペレッタ「メリーウィドウ」全 3 幕

Franz Lehar: Die lustige Witwe（The Merry Widow）（1905 年）
台本：ヴィクトール・レオン、レオ・シュタイン
演出：ヘルムート・ローナー
指揮：フランツ・ウェルザーメスト
チューリヒ歌劇場管弦楽団及び合唱団
ハンナ・グラヴァリ：ダグマール・シュレンベルガー（ソプラノ）
ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵：ロドニー・ギルフライ（バリトン）
ヴァランシエンヌ：ウーテ・グフレラー（ソプラノ）
カミーユ・ド・ロジヨン：ピョートル・ベチャーラ（テノール）
ミルコ・ツェータ男爵：ルドルフ・ハルトマン（バリトン）
ニェーグシュ：ヘルベルト・プリコパ
2004 年のライブ収録　日本語字幕付き

レハール

主な登場人物

ハンナ・グラヴァリ
ポンテヴェドロ国の
裕福な未亡人

ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵
パリ大使館の書記官
ハンナの元恋人

ヴァランシエンヌ
ツェータ男爵の
妻

カミーユ・ド・ロジヨン
大使館のフランス人アタッシェ
ヴァランシエンヌの崇拝者で
熱心に口説いている

ミルコ・ツェータ男爵
ポンテヴェドロ国の
パリ駐在公使

ニェーグシュ
大使館の書記官
おとぼけの語り役

あらすじ

第１幕

舞台はパリ、ポンテヴェドロ公使館では、国王誕生祝賀パーティが開かれているが、公使のツェータ男爵が悩みを抱えていました。それは、老富豪と結婚後わずか8日で未亡人となったハンナが、パリに居住を移したこと。もしハンナがパリの男と結婚したら、莫大な遺産が母国ポンテヴェドロから失われることとなり、国の存亡に関わるのです。そこでツェータ男爵は、公使館の書記官ダニロを彼女と結婚させて、遺産が他国に流出するのを食い止めようとします。実はダニロは、ハンナと過去に愛し合っていた仲でしたが、身分の違いから彼の親族が反対したため、結婚できなかったという経緯がありました。彼は、大金持ちとなったハンナに、いまさら結婚したいと言い出せません。

一方カミーユはツェータ公使の美貌の夫人ヴァランシエンヌを熱心に口説くが夫人は今ひとつ乗り気でない。

第２幕

翌日、ハンナ邸で開かれた夜会で、ツェータ男爵の妻ヴァランシエンヌが、パリの色男カミーユに口説かれていました。ヴァランシエンヌは自らの扇子に「私は貞淑な人妻です」と書いて誘いを断ります。けれど、ヴァランシエンヌはとうとうカミーユの誘いを振り切れず、庭の小屋で二人きりになります。それに気付いたのが夫のツェータ男爵。怒って現場を押さえようとすると、小屋から出てきたのはカミーユとハンナでした。ヴァランシエンヌを救うためにハンナがうまく入れ替わったのです。そして成り行きでハンナは、カミーユとの婚約を発表します。それを聞いて驚いたのはダニロ。彼は心の中の動揺が隠せません。彼の動揺する姿から、ハンナは自分への愛を確かめることができました。

第３幕

祖国存亡の名目もあり、ダニロは、ハンナとカミーユの結婚を阻止しようと、ハンナを説得します。カミーユとの結婚は無しとなり、ダニロとハンナは和解しましたが、それでもダニロは結婚を申し込もうとしません。

このときハンナは、亡夫の遺言に「再婚するなら、彼女は全財産を失う」とあることを明らかにします。それを聞いて喜んだダニロは、即座に求婚しました。ハンナは喜んでこの申し出を受けて、遺言の続きを明らかにします。そこには「彼女の失った全財産は、再婚した相手に与える」とあったのでした。

ところで、ハンナ邸の庭の小屋にヴァランシエンヌの扇子が落ちていたことから、カミーユとの一件が、ツェータ男爵の知るところとなります。ツェータ男爵がヴァランシエンヌに離婚を告げると、彼女は扇子を開くように言います。そこにはもちろん「私は貞淑な人妻です」と書かれており、ツェータ男爵は妻に許しを求めたのでした。

（作成　塚田）